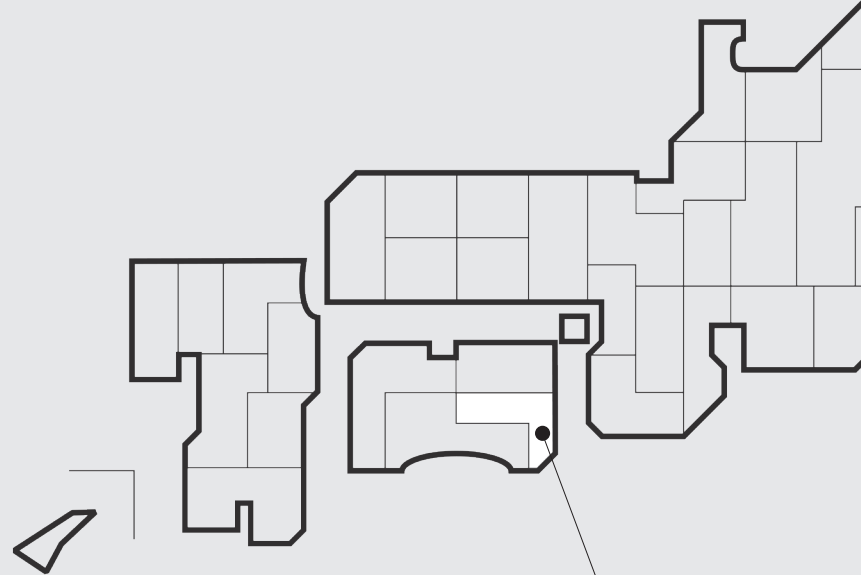


人こそ資源
支所ケア会議を基盤として



徳島県 那賀町

那賀町地域包括支援センター

総面積：695 km²

人口：8,620 人

65歳以上：4,076 人

高齢化率：47.3 %

(2017年10月末 現在)

執筆：那賀町地域包括支援センター 湯浅雅志 (主任介護支援専門員)

那賀町は徳島県南部に位置し、北西部には四国山脈、南部には海部山脈など標高1,000m以上の山々に囲まれた、総面積695km²の町です。徳島県の約1/6を有する広大な面積ですが、地域の大半が森林で、居住可能面積は総面積の5%しかありません。

2005年に鷺敷町、相生町、上那賀町、木沢村、木頭村の5つの町村が合併し、現在の那賀町となりました。合併時の人口は1万1,893人でしたが、現在は8,620人と毎年200人以上減少し、高齢化率は47.3%、75歳以上も29.3%です。広大な面積に

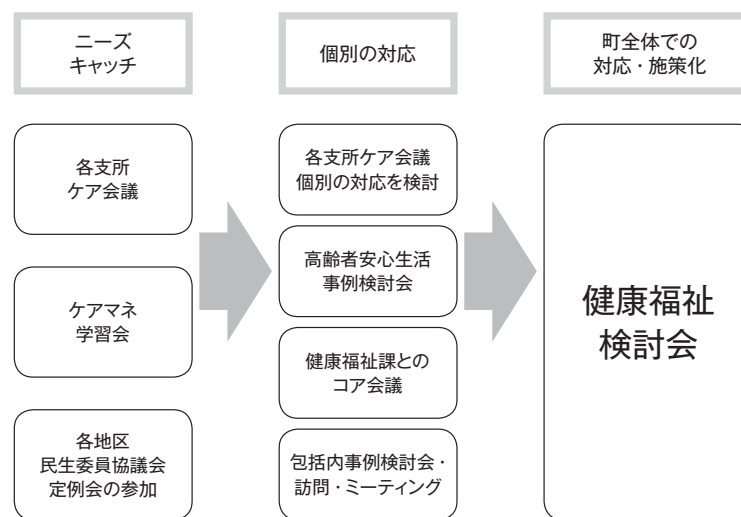
集落が点在する、少子高齢化と過疎化が同時に進む町です。

那賀町地域包括支援センターは、2006年に相生包括ケアセンター内に直営で設置されました。相生包括ケアセンターは保健センター、有床診療



那賀町はこのような山あいにあります

図 那賀町の地域ケア会議体制



所、居宅介護事業所、デイケア、訪問介護事業所などが入る、町の保健医療福祉の拠点です。

地域包括支援センターの職員は当初は3名でスタートし、現在は7名体制です(管理者・保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員各1名、介護支援専門員2名、認定調査員1名)。地域包括ケアシステムの構築を担う中核機関としては、7名だけで対応することは難しく、担当課を含む行政・社会福祉協議会、その他関係機関や地域住民と協働しながら、各種事業を進めています。

那賀町の地域ケア会議

那賀町の地域包括ケアシステム創設は、さかのぼること1994年、旧相生町で深刻な医療危機に直面したことがきっかけでした。より効率的な支

援が迫られる中で、保健医療福祉の専門職が毎週集まるようになりました。

当初は、業務負担になるのではと懸念しましたが、ミーティングを重ねる中で効果的な支援が行えるようになり、またミーティングそのものが多職種で取り組む基盤となるなど、なくてはならないものになっていきました。

「この場をさらに発展させることはできないか」と当時の専門職と地域住民が一体となって話し合い、その結果1998年に生まれたのが、保健医療福祉の集合体である相生包括ケアセンターです。

その後、2005年に町村合併が、2006年に地域包括支援センターが相生包括ケアセンター内に開設。これを機に、これまで行っていたミーティングを「支所ケア会議」と名づけ、旧町村単位で毎月1~4回開催することとしました。加えて、そこであがった地域課題や町全体で協議すべき内

容を検討する「健康福祉検討会」が立ち上がりました(図)。

支所ケア会議では、基本的に地域の医師が各支所役場の担当と連携し、会議の招集や司会を行っています。多忙な医師主導で行うことで、地域の保健医療福祉の関係者には毎回参加してもらえるようになりました。また健康福祉検討会での話し合いを通じて、さまざまな事業も立ち上がっています。

ここでは地域包括も共に取り組んでいる事業の一部をご紹介します。

創意工夫で
高齢者問題をより身近に

2013年ごろ、民生委員やケアマネジャー等から、認知症への理解不足が原因で支援が行き詰まっているケースが支所ケア会議にあげられることが増えてきました。

そこで健康福祉検討会で、「認知症サポーターを2年で現在の4倍にする」という目標を立てました。この目標は1年で達成し、2年後には当初の9倍の約1,000人に。しかし変わらず、支援困難事例の報告は後を絶ちませんでした。

詳しく調べると、サポーターの約7割が60歳以上で、現役世代にほとんど普及していないことが分かりました。そこで、現役世代に認知症につ